

どんどん変わる! ミライのカイゴ

介護ロボット

声をかけてくれるロボット、利用者の動きを見守るセンサー付きロボットなどが、それぞれの特長をいかして介護の現場を支えています。人手不足を補うだけでなく、より安全で快適なケアを実現するために、活用が進められています。



リフト

リフトは、立ち上がりや体の向きを変えることが難しい人を、安全にベッドから車いすなどへ移動させるための機器です。体を機械の力でゆっくりと持ち上げ、移動を支援します。介護する人の身体的な負担を軽減できるため、腰痛などの職業病の予防にもつながります。安全性・快適性の両面で、介護の現場において重要な役割を果たしています。



アシストスーツ

アシストスーツは、腰や肩などにかかる負担を軽減し、動作を補助するために装着する機器です。介護の現場では、利用者の抱きかかえや移動、物品の持ち上げなど、体に負荷のかかる作業を行う際に活用されています。スーツは人の動きに合わせて反応し、持ち上げ動作や中腰姿勢をサポート。介護する人の体の負担を大きく減らします。近年は軽量化やデザイン性も進化しています。



センサー

介護現場では、利用者の安全や快適さを守るために、さまざまなセンサー技術が活用されています。たとえば、ベッド上での体の動きを感知する「見守りセンサー」、尿意や排泄のタイミングを予測する「排泄センサー」などがあります。

千葉発!

テクノロジーで誰もが
介護したくなる社会をつくる

排泄検知センサーヘルプパッドがつくる未来の介護

Q. ヘルプパッドはどのようなツールですか?

ヘルプパッドは、介護施設や病院で利用されている非装着型の排泄検知センサーです。ベッドに敷くことで、センサーが捉えた「におい」の中から、AIが尿や便の「におい」を検知し、最適なおむつ交換タイミングをスマートフォンやパソコンへ通知します。身体に機器をつけないことで、介護が必要な高齢者の方への負担を最小限に抑えながら、快適さや尊厳を守り、介護職の方の業務負担を軽減します。

Q. ヘルプパッドを開発するきっかけはなんですか?

ヘルプパッド誕生の背景には、介護職の方の「おむつを開けずに中を見たい」という声と、家族として経験した「介護のつらさ」の原体験がありました。

中学生の頃、祖母が病気になったことを通じて介護の大変さを知り、介護ロボット開発者の道を志しました。実習先で排泄介助の過酷な現実直面し、排泄ケアの負担を軽減できる技術の必要性を痛感。介護職の方の切実な要望を受け、排泄検知センサーの開発を大学時代から本格的に始めました。

Q. ヘルプパッドを開発するうえでのこだわりがあれば教えてください。

介護現場の願いを受け止め、叶えることを大切にしてきました。「おむつを開けずに中が見たい」「利用者の身体に機械をつけないでほしい」「尿と便どちらもわかるようにしてほしい」という現場の声から生まれたのが、現在のヘルプパッドです。おむつ交換タイミングの通知は利用者ごとにカスタマイズ可能で、シンプルな操作性にも配慮しています。「よりよいケアがしたい」という現場の願いにこれからも伴走していきたいと考えています。



Q. ヘルプパッドでつくりたい 介護の未来について教えてください。

私たちの会社のビジョンである「だれもが介護したくなる社会」の第一歩目として、排泄ケアをもっとやりたくなる、そんな未来をつくりたいです。

そのために「おむつ交換業務を作業からケアに」していくことが、私たちの一つのミッションです。



Q. 最後に、学生の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

皆さんが将来の夢や未来を考える時に、自分の好きなことや、やりたいことから発想することが多いと思います。けれど私のように、自分が経験した辛いこと、または許せないことなどから未来を作っていく方法もあります。

皆さんのどんな経験も、活かし方次第で未来は無限大です。いつか皆さんとお会いする時、お互いの夢の原体験を語り合う。そんな日を楽しみにしています！



宇井吉美さん プロフィール

2011年、千葉工業大学未来ロボティクス学科在学中に株式会社abaを設立。中学時代に祖母がうつ病を発症し、介護者となった経験を元に「介護者側の負担を減らしたい」という思いから、介護者を支えるためのロボット開発の道に進む。特別養護老人ホームにて、介護職による排泄介助の壮絶な現場を見たことをきっかけとして、においセンサーで排泄を検知する「排泄検知センサー Helppad(ヘルプパッド)」を製品化。おむつを開けなくても、おむつ交換タイミングがわかることで介護者の負担軽減を目指している。

協力・写真提供

会社名:株式会社aba 所在地:千葉県八千代市大和田新田1054-200

企業HP



Helppad



学校訪問・ボードゲームのご要望をお待ちしています!

1. 学校訪問授業

介護の未来案内人が、授業の中で介護についてお話しします。介護の基本情報、社会の状況など、介護についての学びやキャリア教育の一環としてぜひご活用ください。

内容

- 介護の仕事とは?
- 介護の仕事の今とこれから
- 介護の仕事の実際
(介護職によるキャリア選択のきっかけや現場でのエピソードなどに関する講話)

所要時間

授業1コマ程度



2. ボードゲーム型ワークショップ

遊んで学べるボードゲーム「100歳の同級生(クラスメイト)」をプレイすることで、ゲーミフィケーションを通じて介護の仕事の魅力や本質を学ぶことができます。

内容

- ボードゲーム体験
- 解説と振り返り(ワークシート記入)
- 介護の仕事の実際
(介護職による現場でのエピソードの紹介など)

所要時間

授業2コマ程度



お問い合わせ・

お申し込みはこちらから

健康福祉指導課 福祉人材確保対策室

☎043-223-2606 ✉ksjinzai@mz.pref.chiba.lg.jp

介護のことをもっと知りたくなった! という方はぜひこちらをご覧ください

千葉県介護の未来案内人 Xアカウント

千葉県介護の未来案内人が、介護の仕事の日常を発信しています。
リアルな介護を知りたい方はぜひフォローをお願いします!



学べる動画コンテンツ

千葉県セミナー公式チャンネル内にて、小・中・高校生の皆さんへ
介護の魅力を紹介する動画を公開中!



千葉県庁 健康福祉指導課

事業名：千葉県介護の未来案内人事業、千葉県介護の未来案内人ワークショップ事業

企画制作：NPO法人Ubdobe

協力：千葉県介護の未来案内人、株式会社aba

デザイン：入江 阿寿香

イラスト：児島 衣里